

2023年度冬季企画展

大谷大学博物館開館20周年記念

京都を学ぶ

拓本からみる

京の

寺

の

鐘

ほんしょう

Temple bells of Kyoto seen from rubbings

唯所有梵鐘形
故禪林寺
具昭和和尚始發
有心改鑄銘範
戒早化檀越

Free admission
観覧料
無料

拓本を見てはいかがカネ?

2024年1月13日[Ⓢ]-2月17日[Ⓢ] 大谷大学博物館

開館時間:10時-17時(入館は16時30分まで) 休館日:日・月曜(ただし、1月15日(月)は開館) 主催:大谷大学博物館
①・④「平等院鐘銘」拓本 ②「清水寺鐘銘」拓本 ③「妙心寺鐘銘」拓本 ⑤「方広寺鐘銘並鐘座」拓本 ⑥「神護寺鐘銘」拓本 いずれも大谷大学博物館蔵 | Otani University Museum |

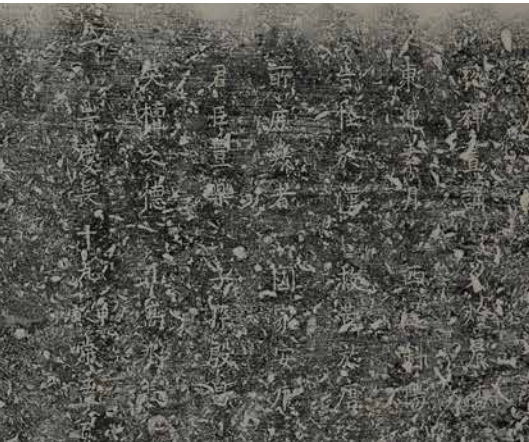
拓本から見る 京の梵鐘

ぼんしょう

Temple bells of Kyoto seen from rubbings

元本学教授で京都国立博物館長をつとめた神田喜一郎氏旧蔵の神田コレクションの金石拓本のなかから、数多い京都の寺院に所蔵される梵鐘のうち著名な梵鐘を取り上げます。朝鮮鐘の面影をもつ現存最古の戊戌年(698)銘の妙心寺の梵鐘(国宝)、華麗な文様で名高い平等院の梵鐘(国宝)、銘文により「三絶の鐘」と称される神護寺の梵鐘(国宝)、豊臣家の滅亡を導いた「国家安康」の銘文で知られる方広寺の梵鐘(重要文化財)など、白鳳時代から江戸時代までの著名な梵鐘の拓本を展示します。

梵鐘の文様は、密やかな装束姿。興隆賦の兵部。



豊臣秀頼の方広寺大仏殿再興時の梵鐘(重文)。慶長19年(1614)作。銘文は大坂の陣の口実となりました。「方広寺鐘銘並撞座」拓本



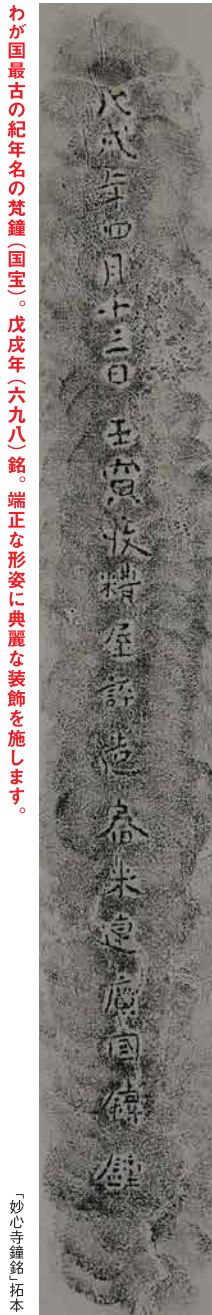
「三絶の鐘」として名高い梵鐘(国宝)。貞観17年(875)作。銘文の志我部海継は明記された鑄師の確実な最古例。「神護寺鐘銘」拓本



飛天や唐獅子などの装飾文様には朝鮮鐘の影響がみられる梵鐘(国宝)。11~12世紀作。「平等院鐘銘」拓本



清水寺復興に際して奉納された梵鐘(重文)。文明10年(1478)作。鑄造は藤原国久。「清水寺鐘銘」拓本

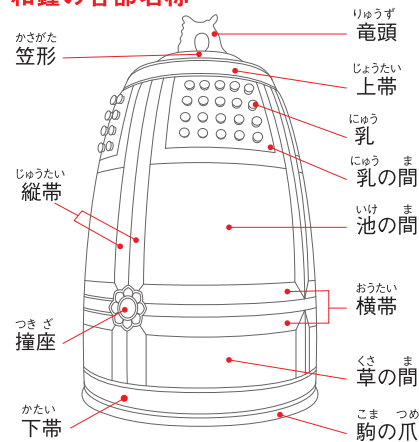


「妙心寺鐘銘」拓本
いずれも大谷大学博物館蔵

梵鐘について

仏教寺院で使用される金属製の鐘(梵音具)。中国鐘・朝鮮鐘・和鐘に大別されます。和鐘は、一方が開く円筒形で、頂部に吊るすための竜頭、下部に撞木で鳴らすための撞座があります。竜頭の下は笠形といい、上方に上帯、下方に下帯があり、縦帯によって縦に四等分します。上から突起のある乳の間、銘文を入れる池の間、撞座のある横帯(中帯)、草の間があり、口縁部を駒の爪と呼びます。撞座は縦帯・横帯の交差点に八葉蓮華文で陽鑄し、時代的には、その位置が竜頭と直交するものが古く、平行するものが新しいとされます。

和鐘の各部名称



神田コレクション

古典籍を中心に重要文化財指定品も含まれます。同氏の旧藏品というにとどまらず、祖父神田香巖氏が精力的に蒐集された古典籍を引き継ぎ、喜一郎氏の見識と鑑識眼による蒐集により、さらに貴重なコレクションになっています。

注意事項
感染症拡大防止のため、手指消毒のご協力をお願いします。

- 地下鉄烏丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「烏丸北大路」下車
- 駐車場はございませんので、お車のご来館はご遠慮ください。ただし身障者の車の場合は事前にご連絡ください。



京都・大学ミュージアム連携



次回の展覧会 2024年度春季企画展 大谷大学のあゆみ 赤レンガの学舎 2024年4月1日(月)~5月11日(土) [予定]